

II. 教育の内容

1. 教育課程

本学教育の基本目標「学びの自由化と個別教育（個に応じた教育）の推進」を目指し、オリエンテーション、教育課程、資格取得用補助教育、進路指導、授業評価、国際交流、地域社会活動、FD、学生募集、教職員人事、施設整備、組織改革など、教育に関連するすべてにおいて、「学びの自由化」の理念を推進するとともに、今年度は、地域に認知され、地域を教育の場として活用できるように、「地域活性型人材育成」プログラムを新たに開発・導入することで、本学の教育過程が一層魅力あるものとなるように試みている。

本学の教育課程は、総合教育科目等を中心とする両学科共通科目と、各学科の専門科目によって構成されている。

（1）両学科共通科目

高等教育機関の存在意義は、専門科目の学修のみにあるのではなく、学際的視野やすぐれた教養人としての思考力をもった人材を輩出するところにある。従って、カリキュラムにおける両学科共通科目は、専門科目履修に先立つ基礎教育として以上の重要な役割を果たすものであり、情報処理学科と国際文化学科に共通の内容を有する科目群として開講されている。ここでは、各科目の独自性を維持しつつ、高等教育機関の特色である、広い視野をそなえた学生の育成を図るという教育理念のもとにそれぞれが開講されている。また、今年度の特色は、保育分野を縮小することで保育士への資格対応から、「子どもケア」という枠組みへと変更した点と、地域を人材育成の基盤として積極的に活用するために、実践的かつ体験的な授業である「地域資源開発」等の科目を新規に取り入れた。これと、スポーツ・レジャー分野との相乗的な効果によって、本学に新たな魅力を創設するだけでなく、ボランティア関連の科目との連携により、地域に一層認知されるような教育を目指している。

1) 構成

- ・ 現代文明論
- ・ 総合教育
- ・ 外国語
- ・ ビジネス基礎
- ・ スポーツ・レジャー
- ・ 子どもケア
- ・ 進路対策
- ・ 海外留学

2) 現代文明論

本講義は、学園の創立者松前重義前総長の高邁なる思想のもとに設けられ、東海大学の建学の精神と教育の理念に沿って行われるもので、本学における教育の中核として位置づけられている。

東海大学の精神は、

- 若き日に、汝の思想を培え
- 若き日に、汝の体躯を養え
- 若き日に、汝の智能を磨け
- 若き日に、汝の希望を星につなげ

という言葉の基本理念として、広く自らの歴史観、世界観、人生観を培い、社会に対する強い使命感と豊かな人間性を備えた人材を育成することを教育目標としている。

a. 2008年度「現代文明論」講義方針

「現代文明論」は、東海大学の建学の精神及び教育の理念の下に展開される全学共通の必修科目である。「現代文明論」において東海大学の創立者である松前重義先生は、過去から現在に至る歴史を正しく認識し、人道主義・人格主義に基づく、広い視野に立った偏向することのないバランスのとれた思想を培うことによって精神文明と物質文明の融合を目指した総合文明の建設にこそ、将来の人類の幸福と社会の発展は導かれるということを一貫して説いてこられた。

さらに松前先生は、「我々はいかなる時代に生きているのか」、「現代をどう認識すべきか」、「今後の

文明はどうあるべきか」など、自然及び社会環境下での我々の生存にかかわる諸問題について根源的な問いを寄せられ、学生各人が修得した学問を通して、人間、社会、自然、科学、歴史、宗教、世界について自ら考え、思想を培い、現代に生きる人間として何をなすべきか、その理想とすべき目標を持つことを「現代文明論」に求めてこられた。

東海大学福岡短期大学における「現代文明論Ⅰ」及び「現代文明論Ⅱ」は、こうした創立者の思想や教育理念を継承し、その生き方に学びながら、東海大学が建学の精神の一つとして掲げている「若き日に汝の思想を培え」を学生自らが各講義を通じて理解し具現化することを目標に展開するものである。

基本的な講義編成としては、東海大学の建学の精神や教育理念を伝える講義を核に、「現代文明はいかにして誕生したか」、「現代文明の諸問題」、「新しい文明の創造に向けて」を柱に各講義が編成されている。中でも「現代文明の諸問題」においては春学期、秋学期にわたって、「環境と資源」、「情報化社会」、「先端技術」、「人間と健康」、「多様化する社会と人権」、「国際社会と異文化理解」というように、時代に即応したテーマを取り上げ、現代文明の今を学生に認識してもらうとともにそこから自らの現代文明についての考えや問題を解決する意識を養ってもらうことを年間の目標とするものである。

b. 2008年度 東海大学福岡短期大学 「現代文明論」講義

「現代文明論Ⅰ」 (春学期：木曜日 2502教室 講義時間50分 14：10-15：00)

回数	期日	講義区分と題目		講師
1	4月9日	ガイダンス		現代文明論委員
2	4月17日	大学で何を学ぶか - 建学の精神とその基調 -		高橋 守人 (学長)
3	4月24日	東海大学の建学の思想とその源流		松前 達郎 (東海大学総長)
4	5月1日	現代文明はいかにして誕生したか	1.日本の思想と文明	神山 高行 (国際文化学科)
5	5月8日		2.西欧の思想と文明	真下 仁 (国際文化学科)
6	5月15日		3.自然科学と文明	徳永 克美 (情報処理科)
7	5月22日	現代文明の諸問題	環境と資源	1.エネルギー問題を考える 齋藤 守正 (情報処理科)
8	5月29日		2.科学技術と資源	末松 泰子 (情報処理科)
9	6月5日	現代文明の諸問題	情報化社会	1.情報革命と変貌する社会 八尋 剛規 (情報処理科)
10	6月12日		2.情報化社会と先端技術	矢原 充敏 (情報処理科)
11	6月19日	新しい文明の創造に向けて	1.多民族社会を考える	吉岡 メリーエレン (国際文化学科)
12	6月26日		2.東アジアの民俗と社会	伊原 奉賢 (国際文化学科)
13	7月3日	討論		現代文明論委員
14	7月26日	授業総括・授業アンケート		現代文明論委員

「現代文明論Ⅱ」 (秋学期：木曜日 2502教室 講義時間50分 14：10-15：00)

回数	期日	講義区分と題目		講師	
1	10月2日	ガイダンス		現代文明論委員	
2	10月9日	東海大学の基本理念と未来		蟹江 秀明 (東海大学理事・文学部文芸創作学科)	
3	10月16日	現代文明の諸問題	多様化する社会と人権	ジェンダーを考える 伊津 信之介 (情報処理科)	
4	10月23日		人間と健康	心の健康を考える 大嶋 昭雄 (宗像医師会病院小児科部長)	
5	10月30日		先端技術	1. バイオテクノロジーを考える	村田 達郎 (九州東海大学農学部応用植物学科)
6	11月6日			2. 現代社会と数学	宮川 幹平 (情報処理科)
7	11月13日		国際社会と異文化理解	1. 異文化理解における観光の役割	大方 優子 (国際文化学科)
8	11月20日			2. インドと教育	赤井 ひさ子 (国際文化学科)
9	11月27日			3. 異文化に暮らす	北濱 幹士 (国際文化学科)
10	12月4日		新しい文明の創造に向けて	1. 東西文明の出会いと現代社会	宮内 順 (国際文化学科)
11	12月11日			2. 歴史観と思想そして教育	難波 克彰 (東海大学文学部・現代文明論研究センター)
12	12月18日	3. ビットの時代		伊津 信之介 (情報処理科)	
13	1月8日	討論		現代文明論委員	
14	1月15日	授業総括・授業アンケート		現代文明論委員	

3) カリキュラム

両学科共通科目 (2008年度生)

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。 数字は1週あたりの時間数。 集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼担非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
現代文明論	現代文明論I	講義	○	2	2				専任	143		
	現代文明論II	講義	○	2		2			専任	141		
総合教育	現代社会と思想	講義	×	2	2	2			専任	74	○	
	文学と歴史	講義	×	2			2	2	専任	75	○	
	青年期の心理	講義	×	2	2	2			非常勤	83		
	モバイル社会と市民生活	講義	×	2	2	2			専任	83		
	経済と国際社会	講義	×	2			2	2	専任	83		
	環境と地球	講義	×	2			2	2	専任	83		
	情報と生活	講義	×	2			2	2	専任	83		
	地域社会とボランティア	講義	×	2	2	2			専任	66		
外国語	英語I	講義	×	1	2				専任	112		
	英語II	講義	×	1		2			専任	94		
	英語III	講義	×	1			2		専任	94		
	英語IV	講義	×	1				2	専任	94		
	特修英語I	講義	×	1		2			専任	24		
	特修英語II	講義	×	1			2		専任	24		
	フランス語I	講義	×	1	2				専任	12		
	フランス語II	講義	×	1		2			専任	7		
	韓国語I	講義	×	1	2				専任	25		
	韓国語II	講義	×	1		2			専任	14		
	中国語I	講義	×	1	2				専任	13		
	中国語II	講義	×	1		2			専任	21		
ビジネス基礎	情報リテラシーI	実習	×	1	2				専任	102	○	
	情報リテラシーII	実習	×	1		2			専任	135	○	
	ビジネス基礎	講義	×	2	2				専任	68		
	秘書実務	実習	×	1	2				専任	32		
	広報メディア論	講義	×	2			2		専任	34		
	地域資源開発I	講義	×	2	2				専任	31		
	地域資源開発II	講義	×	2	集				専任	25		
	地域資源開発III	講義	×	2		2			専任	25		
スポーツ・レジャー	スポーツ・レジャー論	講義	×	2	2				専任	29	○	
	スポーツ・レジャーマネジメント	講義	×	2		2			専任	24	○	
	生涯スポーツ	講義	×	2			2		専任	70		
	スポーツ理論及び実習I	実習	×	1	2				専任	69		
	スポーツ理論及び実習II	実習	×	1		2			専任	69		
	スポーツ理論及び実習III	実習	×	1			2		専任	69		
	スポーツ理論及び実習IV	実習	×	1				2	専任	69		
	野外活動理論及び実習I	実習	×	1			2		専任	69		
	野外活動理論及び実習II	実習	×	1				2	専任	69		
	スポーツ科学論	講義	×	2			集		非常勤※	69		
	スポーツ・ヘルス	講義	×	2				2	非常勤※	69		
救急処置法	講義	×	2				集	非常勤※	69			
子どもケア	社会福祉概論	講義	×	2	2				非常勤	36		
	児童福祉	講義	×	2		2			非常勤	64		
	教育原理	講義	×	2	2				非常勤	47		
	子どもケア論	講義	×	2		2			非常勤	45		
	子どもの健康と保健	講義	×	2		2			非常勤	54		
	社会福祉ボランティア論	講義	×	2				2	専任	54		
進路対策	進路対策I	講義	×	2	2				専任	142		
	進路対策II	講義	×	2		2			専任	144		
	進路対策III	講義	×	2			2		専任	144		
	企業実習	実習	×	2			集		専任	8		
海外留学	海外短期留学	講義	×	2	東海大学派遣留学制度他を含む				専任	0		
	海外中期留学	講義	×	3					専任	0		
	海外研修(航海)	講義	×	4		集			専任	1		

両学科共通科目（2007年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
現代文明論	現代文明論I	講義	○	2	2				専任	163		
	現代文明論II	講義	○	2	2				専任	159		
総合教育	現代社会と思想	講義	×	2	2	2			専任	92	○	
	文学と歴史	講義	×	2		2	2		専任	129	○	
	発達心理学	講義	×	2	2	2			非常勤	152		
	社会福祉概論	講義	×	2	2	2			専任	107	○	
	法と市民生活	講義	×	2	2	2			専任	146		
	経済と国際社会	講義	×	2			2	2	専任	113		
	環境と地球	講義	×	2			2	2	専任	58	○	
	情報と生活	講義	×	2			2	2	専任	92		
	地域社会とボランティア	講義	×	2	2	2			専任	145		
外国語	英語I	講義	×	1	2				専任	114		
	英語II	講義	×	1		2			専任	88		
	英語III	講義	×	1			2		専任	78		
	英語IV	講義	×	1				2	専任	52		
	特修英語I	講義	×	1		2			専任	18		
	特修英語II	講義	×	1			2		専任	16		
	フランス語I	講義	×	1	2				専任	25		
	フランス語II	講義	×	1		2			専任	11		
	韓国語I	講義	×	1	2				専任	46		
	韓国語II	講義	×	1	2				専任	21		
中国語I	中国語I	講義	×	1	2				非常勤	48		
	中国語II	講義	×	1	2				非常勤	25		
情報リテラシー	情報リテラシーI	実習	×	1	2				専任	162	○	
	情報リテラシーII	実習	×	1		2			専任	164	○	
	コンピュータ応用リテラシー	講義	×	2		2			専任	20	○	
	メディアリテラシー	講義	×	2	2				専任	67	○	
スポーツ・レジャー	スポーツ・レジャー論	講義	×	2	2				専任	38		
	スポーツ・レジャーマネジメント	講義	×	2	2				専任	30		
	スポーツ理論及び実習I	実習	×	1	2				専任	64		
	スポーツ理論及び実習II	実習	×	1		2			専任	63		
	スポーツ理論及び実習III	実習	×	1			2		専任	40		
	スポーツ理論及び実習IV	実習	×	1				2	専任	41		
	野外活動理論及び実習	実習	×	1			2		専任	17		
	スポーツ英語	講義	×	1		2			専任	6		
	スポーツ科学論	講義	×	2			集		非常勤※	14		
	スポーツ・ヘルス	講義	×	2				2	非常勤	17		
	救急処置法	講義	×	2				集	非常勤※	15		
	動作解析システム	講義	×	2	集				非常勤	23	○	
保育	児童福祉	講義	×	2		2			専任	11	○	
	精神保健	講義	×	2			2		非常勤	68		
	小児保健	講義	×	2		2			専任	22		
	小児栄養	講義	×	2		集			非常勤	39		
	保育原理	講義	×	2	2				専任	33	○	
	教育原理	講義	×	2	2				専任	55	○	
	養護原理	講義	×	2			2		非常勤	51		
	保育実践論	講義	×	2		2			専任	10		
	保育技能I	実習	×	1		2			専任	8		
	保育技能II	実習	×	1			2		非常勤	9		
	保育観察・保育参加体験	実習	×	1		2			専任	8		
保育指導体験	実習	×	1		集			専任	8			
事務・営業	簿記原理I	講義	×	2	2				非常勤	78		
	簿記原理II	講義	×	2		2			非常勤	75		
	簿記演習I	演習	×	2	2				非常勤	78		
	簿記演習II	演習	×	2		2			非常勤	74		
	ビジネス基礎	講義	×	2	2				専任	92		
	流通経済	講義	×	2		2			非常勤	37		
	マーケティング	講義	×	2	2				専任	56		
	ビジネス文書作成技法	講義	×	2		2			非常勤	87		
	プレゼンテーション	講義	×	2	2				専任	78		
	広報メディア論	講義	×	2		2			専任	70		
	秘書実務	実習	×	1	2	2			専任	46		
	オフィス事務	講義	×	2			2		非常勤	43		
企業実習	実習	×	2		集			専任	13			
進路対策	進路対策I	講義	×	2	2				専任	162		
	進路対策II	講義	×	2		2			専任	159		
	進路対策III	講義	×	2			2		専任	141		
海外留学	海外短期留学	講義	×	2	東海大学派遣留学制度他を含む				専任	1		
	海外中期留学	講義	×	3					専任	0		
	海外研修(航海)	講義	×	4	集				専任	2		

4) 今後の課題

本学の未来に向けた改革の中心に位置づけられた「両学科共通科目」の変更は、4年目を迎え、今年度一定の成果をあげたと考える。従来、現代文明論、総合教育科目、外国語科目、体育科目を中心とした構成に大きな変更が加えられ、「学びの自由化」と「個別教育」を標榜する本学にとって目指すべき方向がはっきりと打ち出され、新たな科目の追加が行なわれ、履修モデルが飛躍的に拡大した。それが、将来に向けて本学の魅力を一層際立たせてくれるものと期待しているが、この拡大路線が4年目となり、様々な問題点が表面化してきた。最も大きな問題点は、本学が開学以来維持してきている二学科体制（国際文化学科、情報処理学科）のなかで、各学科の教育目標や授業科目と「両学科共通」分野の教育目標や授業科目の整合性の確保が困難になってきたことである。その傾向が顕著に現れているのが、保育分野である。特に、保育士の育成を専門としない本学のような短大において、実際に保育士試験に合格させることは非常に難しいという結果が、この三年間で出ただけではなく、本来の学科の授業にまで影響を与えるという結果となり、分野としては削除することにした。この様に、本学の教育の中心は各学科にあるが、その魅力を補完する目的で導入された「両学科共通」分野との連携が、時として難しくなり、両学科の教育的効果に結びつかなくなる危険が出てきた。

そこで、今年度、新たに「地域」を基盤とした教育プログラムを導入することになったが、この取り組み「地域活性型人材育成プログラム」は、10月に文部科学省から「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」に採択された。このチャンスを積極的に生かすことで、本学の可能性を広げ、将来に向けて持続可能なビジョンを策定することで、更なる改革に結びつくように努力したい。

(2) 情報処理学科

1) 教育方針・構成

21世紀のICT社会では、予想をはるかに越えるスピードで社会の情報化が進んでおり、あらゆる分野のデジタル化・モバイル化・ネットワーク化が進展していく中で、新しい事業分野が創出され、産業・経済・社会を大きく変革させている。そのため、従来からの情報処理産業のみならず、事務・営業・財務・医療など、広範な領域においてICTは不可欠なものとなっている。

情報処理学科では、様々なビジネス現場において、即戦力として戦えるだけのICTスキルとビジネス知識の修得、及びそれらの活用力・応用力を育むことを教育の目標として、ビジネスの実務者として柔軟に対応できる人材の育成を図っている。また、2008年度に文科省に採択された教育GPの取り組みである地域と連動した実践教育にも積極的に学生を参加させ、社会人としての基礎スキルであるコミュニケーション能力、行動力、企画力等の育成にも重点を置いている。

これを実現するために、情報処理学科では、エンドユーザとしてコンピュータを使う側の分野とデジタルコンテンツを表現あるいは作成する分野を中心に、これに資格支援を目的とした分野を加えた3つの分野と14の履修ユニットを構成している。(両学科共通分野は除く)資格支援の分野は、学生が修得した知識やスキルを保証するものであり、出口に向けては特に注力している分野でもある。

キャリアスタッフ

オフィス事務や企業秘書、メディアスタッフ等においては、各種業務をコンピュータで処理するための必要な基礎知識と技術、ビジネス基礎や文書作成技法、流通に関する知識や経営情報分析などを中心に学ばせ、ICT化が進むビジネス社会の中で即戦力として活躍できる人材育成を目指している。また、医療現場で取り扱われる電子データ・情報の処理の基礎知識と医療事務に関する科目を設け、ICT化が進む医療の現場でも事務的な立場での活躍も期待できるよう構成している。さらに、広報活動に必要な編集技術等も学べる科目等も配置して、多様な分野に対応できるよう配慮している。

卒業後の進路は、銀行・証券会社を含む一般事務処理業務、病院での診療報酬請求業務や印刷関連業務などが期待できる。

ITスタッフ

情報処理分野におけるマルチメディアの進展により、現在の情報処理業界においては、一つの能力に長けた人材だけでなく、映像、音楽、プログラム、Web制作などを知識と技術をバランスよく兼ね備えた人材も求められている。そこで、CG・アニメーションでは、静止画、動画、音楽などの融合によるデジタルメディアコンテンツ制作に必要な基礎知識と技術を学習させ、ホームページクリエイターでは、Web制作の基礎からCMSの利用やWebプログラミングを理解させ、システムエンジニアでC言語を中心としたプログラミングやネットワーク技術の習得させている。ユニット毎の学習目的を明確に分けながらも、それぞれが連動した中で、融合した技術習得ができる構成としている。また、その知識と技術を生かすユニットとして、ITインストラクターやインターネットビジネスを設け、ICT技術を幅広く活用していけるよう配慮している。

卒業後の進路は、Webコンテンツ制作やその関連業務、CG関連業務や通信・情報サービス分野、システムエンジニアなど企業等での情報化推進部門やネットワーク関連業務などである。

情報マスター

コンピューターの基礎スキルや知識、あるいは情報処理能力や事務処理能力を修得させる上では、現段階でどの程度身につけているかを常に意識させながら学習させ、意欲向上につなげる必要がある。また、情報処理学科の中心であるキャリアスタッフ分野とITスタッフ分野においては、出口の部分でも自己能力を証明する大きな武器となる。そのため、これらに関連する資格取得の支援を目的に、キャリアスタッフ分野の関連資格としてPC検定、ITスタッフ分野の関連資格として基本情報技術者、両共通としてシスアド試験等を設け、一人でも多くの学生が資格取得できるようカリキュラムを構成している。

特に、シスアド試験と基本情報技術者試験については、午前試験免除の申請も行い、これに対応したカリキュラムの見直しを図り、支援体制を強化した。

<重点補助教育講座>

初級システムアドミニストレータ試験、日商P C検定（文書作成）、日商P C検定（データ活用）、日商簿記検定、カラーコーディネータ検定、CG検定、マルチメディア検定

2) カリキュラム

a. 開講科目（学科専門科目）一覧 学科専門科目（2008年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
オフィス実務	経営基礎論	講義	×	2				2	専任			
	マーケティング	講義	×	2				2	専任			
	ビジネス文書作成技法	講義	×	2		2			非常勤	35		
	プレゼンテーション	講義	×	2	2				専任	49		
	オフィス事務	講義	×	2			2		非常勤			
	インターネットビジネス	講義	×	2		2			専任	65		
	編集基礎	講義	×	2				2	専任			
	医療情報	講義	×	2		2			非常勤	39		
	医療事務	講義	×	4		4			非常勤	44		
	データ活用	講義	×	2			2		専任			
	IT教育法	講義	×	2				2	専任			
情報実務	メディアリテラシー	講義	×	2	2				専任	39		
	2次元CG制作	実習	×	1	2				専任	35		
	3次元CG制作I	実習	×	2	4				専任	22		
	3次元CG制作II	実習	×	2		4			専任	10		
	メディアシステム	講義	×	2		2			専任	41		
	デジタルデッサン	講義	×	2			2		非常勤			
	アニメーション	実習	×	2				4	専任			
	カラーコーディネーション	講義	×	2	2				非常勤	81		
	ゲームデザイン	講義	×	2				2	専任			
	情報基礎	講義	×	2	2				専任	58		
	コンピュータ応用リテラシー	講義	×	2				2	専任		○	
	アルゴリズム	講義	×	2		2			専任	18	○	
	プログラミングI	実習	×	1		2			専任	41	○	
	プログラミングII	実習	×	1			2		専任		○	
	プログラミングIII	実習	×	1				2	専任		○	
	コンピュータネットワーク	講義	×	2		2			専任	35		
	コンピュータシステム	講義	×	2	2				専任	28	○	
	インターネット実習I	実習	×	1	2				専任	57	○	
インターネット実習II	実習	×	1		2			専任	20	○		
インターネット実習III	実習	×	1			2		専任		○		
データベース	講義	×	2		2			専任	31	○		
ビジネス資格	簿記原理I	講義	×	2	2				専任	50		
	簿記原理II	講義	×	2		2			専任	31		
	簿記演習I	演習	×	2	2				専任	50		
	簿記演習II	演習	×	2		2			専任	31		
	PC検定I	実習	×	1	2	2			専任	131		
	PC検定II	実習	×	1	2	2	2		専任	33		
	情報処理I	講義	×	2	2				専任	22	○	
	情報処理II	講義	×	2		2			専任	25		
	CAD	講義	×	2			2		専任			
	CAD実習	実習	×	1				2	専任			
理数基礎	基礎数学I	講義	×	2	2				非常勤※	9	○	
	基礎数学II	講義	×	2		2			非常勤※	6	○	
	線形代数学I	講義	×	2	2				専任	11		
	線形代数学II	講義	×	2		2			専任	11		
	微分積分学I	講義	×	2	2				専任	11		
	微分積分学II	講義	×	2		2			専任	5		
ゼミナール	総合ゼミナールI	演習	○	1	2				専任	69		
	総合ゼミナールII	演習	○	1		2			専任	72		
	総合ゼミナールIII	演習	○	1			2		専任			
	総合ゼミナールIV	演習	○	1				2	専任			
	専門ゼミナールI	演習	×	2	2				専任	24		
	専門ゼミナールII	演習	×	2		2			専任	27		
	専門ゼミナールIII	演習	×	2			2		専任			
	専門ゼミナールIV	演習	×	2				2	専任			

学科専門科目（2007年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。 数字は1週あたりの時間 数。集中授業の場合は 「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤に は「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講 科目については 累計。斜線は履 修者数未確定)	e- ラー ニング	備考
					1	2	3	4				
キャリア情報	ベンチャー企業論	講義	×	2		2			専任	37		
	インターネットビジネス	講義	×	2				2	専任	65		
	編集基礎	講義	×	2		2			専任	14		
	医療情報	講義	×	2		2			非常勤	57		
	医療事務	講義	×	4		4			非常勤	58		
	データ活用	講義	×	2		2			専任	32		
	CAD実習I	実習	×	1			2		専任	17		
	CAD実習II	実習	×	1				2	専任	11		
	IT教育法	講義	×	2			2		専任	15		
	ITコーディネイトI	講義	×	2	2				非常勤	24	○	
	ITコーディネイトII	講義	×	2		2			非常勤	20	○	
情報基礎	講義	×	4		4			専任	72			
メディアデザイン	2次元CG制作	実習	×	1	2				専任	31		
	3次元CG制作I	実習	×	2	4				専任	25	○	
	3次元CG制作II	実習	×	2		4			専任	11	○	
	メディアシステム	講義	×	2		2			専任	31		
	デジタルデッサン	講義	×	2			2		非常勤	39		
	アニメーション	実習	×	2			4		専任	11	○	
	カラーコーディネーション	講義	×	2	2				非常勤	57		
ゲームデザイン	講義	×	2			2		専任	15	○		
情報デザイン	情報処理I	講義	×	2	2				専任	56	○	
	情報処理II	講義	×	2		2			専任	25		
	アルゴリズム	講義	×	2		2			専任	28	○	
	プログラミングI	実習	×	1	2				専任	45	○	
	プログラミングII	実習	×	2		4			専任	12	○	
	プログラミングIII	実習	×	2			4		専任	6	○	
	コンピュータネットワーク	講義	×	2			2	2	専任	48	○	
	インターネット実習I	実習	×	1	2				専任	65	○	
	インターネット実習II	実習	×	1		2			専任	36	○	
	インターネット実習III	実習	×	1			2		専任	15	○	
データベース	講義	×	2			2		専任	26	○		
理数基礎	基礎数学I	講義	×	2	2				非常勤※	12	○	e-Learningのみ
	基礎数学II	講義	×	2		2			非常勤※	9	○	e-Learningのみ
	線形代数学I	講義	×	2	2				専任	15		
	線形代数学II	講義	×	2		2			専任	14		
	微分積分学I	講義	×	2	2				専任	14		
	微分積分学II	講義	×	2		2			専任	10		
ゼミナール	総合ゼミナールI	演習	○	1	2				専任	69		
	総合ゼミナールII	演習	○	1		2			専任	66		
	総合ゼミナールIII	演習	○	1			2		専任	67		
	総合ゼミナールIV	演習	○	1				2	専任	66		
	専門ゼミナールI	演習	×	2	2				専任	0		
	専門ゼミナールII	演習	×	2		2			専任	11		
	専門ゼミナールIII	演習	×	2			2		専任	25		
	専門ゼミナールIV	演習	×	2				2	専任	14		

b. 履修可能科目および卒業要件について

情報処理学科に所属する学生は、情報処理学科の学科専門科目のほか、項目（1）で挙げた両学科共通科目を履修できる。また、国際文化学科の学科専門科目についても、原則として履修できる。このほか、1・2セメスターの学生が、3・4セメスターの科目を受講することは原則として認めない。

卒業要件としては、両学科共通科目および学科専門科目に設定された必修科目（必選別に○マークのある科目）を全て合格し、かつ、合計で62単位以上の単位を取得することである。ただし、国際文化学科の学科専門科目については、卒業要件として最大で20単位までしか認めない。

3) 現状評価、問題点・課題と教育課程の見直し・改善

入学目的、学習歴、学習目的、将来像など多様化する学生に対応し、より効果のある教育を行うために科目の見直しを図りながら幅広い履修希望に応じてきた。

特に、2008年度からは資格取得を支援を学科の大きな目標としてカリキュラム見直しを行い、「PC検定」など資格取得を主目的とし科目を導入し、これに伴い各科目の内容も見直しを図った。また、情報系国家資格である初級システムアドミニストレータ試験と基本情報技術者試験については、午前試験免除の申請を行うと共に、これに対応したカリキュラムへの改定を行い、学生がより受験しやすい環境を整えた。

この成果として、ここ数年減少傾向にあった検定受験者が増加傾向となり、資格取得への意欲促進につながることができた。しかし、情報処理学科が推奨するすべての資格を対象に科目設定を含めた支援体制が整備されていないため、資格による検定受験者の偏りが見受けられた。また、体制が整備された資格については、その支援体制に頼りすぎる傾向があり、自助努力の不足を招いた結果、受験者は増加したものの、合格者の大幅増にはつなげることができていない。

また、コンピュータスキルの面ではスキル格差が年々拡大傾向にあり、各授業の運用に支障をきたしている。情報処理学科では、実習系科目の複数担当制や e-Learning 教材の開発など学科組織あるいは教員個々の努力で改善を試みているが、将来目標や履修目的の多様化によるモチベーションの問題も絡み、必ずしも改善が図られているとは言えない部分がある。

入学者の傾向も、キャリアスタッフ分野の希望者が全体の6割程度、ITスタッフ分野が2割程度、特別編入分野が2割程度を占めており、キャリアスタッフの希望者が増加傾向にある。キャリアスタッフはICTスキルをベースとして、各ユニットに応じた専門知識を修得する分野であるが、現状のICT関連のカリキュラム構成はITスタッフをベースとした構成になっている。

以上のように、情報処理学科では資格支援の強化を図ったがいくつかの問題点が出てきており、かつ入学者の希望分野の偏りに歯止めがかからない状況も見受けられることから、社会動向も見据えながらカリキュラムの見直しを検討する必要がある。また、教育GPのプログラムをカリキュラムに連動させていくことも、多様化した学生への教育を考えた場合、非常に有効であると考えており、新たな教育システムの展開が必要な時期に迫られている。

(3) 国際文化学科

1) 教育方針・構成

国際文化学科は開設以来、「世界の文化圏を理解し、国際的な諸問題に対応することを目的に、語学、情報分析、異文化対応能力を養い、また、観光や国際ビジネスなどの専門実務に対応できる人材を育成する」ことを教育方針に掲げているが、社会情勢及び短期大学を取り巻く環境の変化により、高等教育で一般的であった講義形式による教養教育の展開や、教養教育をベースとした専門知識の教授といった伝統的な手法が必ずしも現実的でなくなっていることから、国際文化学科では、当初の精神を継承しながら、「実践的かつ応用力に優れた人材の輩出」を教育方針の第一義として、教育体制の再構築を図っている。

具体的には、専門分野として「観光ビジネス分野」、「英語・中国語・コリア語系」、「スポーツ・地域交流分野」の3分野を置くとともに、情報処理学科との共通分野として「特別編入分野」「子どもケア・保育分野」を設置した。これらの各分野に国際文化学科の16履修ユニット、学科共通の5履修ユニットの計21の履修ユニットを設定しているが、これらの履修ユニットを自由に組合せることにより、一人ひとりが自分の希望や進路にあわせて独自のカリキュラムを組むことができる複合型の教育システムを導入している。

具体的には、入学が決まった段階で希望した履修ユニット（2履修ユニットを選択）に応じ、担当教員が一人ひとりの状況を考慮した推奨プランを作成、入学後に、推奨プランを本人の希望や適性に応じて修正するという学修システムにより、学生一人ひとりに最適化した個別教育を可能にしている。たとえば、観光産業でスポーツ関連の仕事を希望する学生には、観光分野の履修ユニットに加え、スポーツ・地域交流分野の履修ユニットを平行して学修するカリキュラムを用意するなど、実践的な観光の知識、技能だけでなく、社会が要請する学際的な視野をもった人材を育成することを狙いとしている。

また、どの履修ユニットを選択しても、インターネットなどITスキルを身につける実践的な教育が、重点的に行われるほか、英語はレベルごとに少人数教育を実現しているため、英語が不安な学生も安心

して受講できる体制を整えている。パソコンソフトを使いこなすことも、インターネット社会では重要なスキルであり、英語や簿記が苦手な学生も一人ひとりにあわせた個別指導体制により、安心して楽しく学習できるようになっている。

東海大学及び一般の四年制大学へ編入を希望する学生にはゼミでの指導とともに、「進路対策」等の科目を設定し、編入指導の効果を高めるように配慮している。また、ハワイ東海インターナショナルカレッジで開講される「ハワイ短期留学」は、総合大学である学校法人東海大学のメリットを十分に生かした特徴ある講義科目である。

各種資格試験対策については、学科共通に展開されており、選択した履修ユニットに関わらず、誰もが積極的にチャレンジできるようになっている。

観光ビジネス分野

旅行スタッフ

観光ビジネスは旅行会社、航空会社、鉄道会社、ホテルなど多岐にわたっており、本履修ユニットでは、とくに旅行業界に焦点をあわせた実践的な教育を展開している。

国際化の進展や、インターネットの本格化は、旅行業界に重大な影響を及ぼしているが、本履修ユニットでは旅行業についての実践的な知識や技能を修得するとともに、「国際社会」「情報社会」の必須知識であるインターネットやパソコンをツールとして駆使して、ビジネスに必要な専門知識、さらには環境保護のような21世紀が直面する課題に至るまで、幅広く修得することができるように配慮している。観光産業で必要とされる総合・国内旅行業務取扱管理者など資格取得のための講座も開設し、新しい時代の観光をになう若い人材を育成することが、この履修モデルの目的である。卒業後の進路は、旅行会社など観光産業のほか、広く一般企業にも進出している。

航空スタッフ

国際化社会の基幹システムを担う航空・空港を中心に、観光の基礎から語学、国際文化など将来、航空スタッフとして活躍するために必要な知識や技能を学ぶことを目的とした履修ユニットであり、とくにこの分野では高度な語学能力が求められるために、語学のレベルアップに力を入れている。エアラインビジネスなどの専門科目により、航空業界の現状を学び、実務教育として、観光産業でもっとも重要な考え方とされているホスピタリティ（おもてなし）の理解を中心に履修する。

ホテルスタッフ

観光産業のなかでも、最近とくに重要度を増しているホテル業界を希望する学生のための履修ユニットとして設定されている。この履修ユニットでは、ホテルの基礎知識を学び、企業実習で実際にホテルの仕事を体験することによって、ホテルへの就職を円滑にするだけでなく、希望する分野を具体的に把握することを狙いとしている。卒業後の進路としては、ホテル、旅館など宿泊関連から、接客や一般事務など多岐にわたっている。

ツアーコンダクター

旅行業界でもとくに、ツアーコンダクター（添乗員）への進路を意識した履修ユニット。旅行業界では分業化が進み、ツアーコンダクターの専門職化が目立っているが、本履修ユニットではツアーコンダクターの実務、観光産業の基本知識、海外国内の観光地理などを履修することに重点を置いている。ツアーコンダクターは旅行商品を最終的に完成させる重要な役割を担っており、その意味で、観光産業に就職を希望する学生にとって、ツアーコンダクター業務の理解は不可欠といえることができる。進路はツアーコンダクターのほか、旅行会社、ホテルなど。また、ツアーコンダクターに必要な資格である旅程管理主任についても、指定講習機関の協力を得て、資格取得をサポートする体制を構築している。

地域ツーリズム

地域ツーリズムとは、観光を通じて地域の活性化を図り、地域環境の保全を図ろうというもので、21世紀に入り、観光の新しい考え方として注目を集めている。観光による地域の振興には、観光産業をはじめ、地域住民、旅行者などさまざまな立場の人が協力して、地域ツーリズムを推進する継続的な努力

が必要である。本履修ユニットでは、地域社会の現状と課題を学び、課題を克服する手段としての観光の役割を学習する。

英語・韓国語・中国語分野

英語コミュニケーション

本履修ユニットは、英語を楽しみたい人や、外国の文化や国際コミュニケーションに興味をもち、国際的な分野で活躍したい人のために設置されたもので、語学の上達のためには、何よりも生きた環境の中で、その国の文化に接することが一番の近道である。ネイティブスピーカーによるきめ細かい指導により、英語が上達するようにカリキュラムされている。本履修ユニットでは、米国政府から認可されたハワイ東海インターナショナルカレッジでの語学研修への参加を推奨しているが、このプログラム（約5週間）に参加することにより、より実践的な英語を習得することができる。さらに東海大学が提携する海外の大学への留学の道も開かれている。

卒業後の進路としては、一般企業をはじめ、外資系企業、航空・運輸業、出版業、秘書など広い分野で活躍できる国際性豊かな人材の育成を目標にしている。

ビジネス英語

国際化が進み、大手企業だけでなく地元の中堅企業でも国際ビジネスの比重が高まっているが、本履修ユニットは、国際ビジネスに必要な英語能力のレベルアップをを図ることを目的としており、ビジネスの現場におけるコミュニケーションや商談に対応できる英語の学修を中心に、カリキュラムが組まれている。

韓国語コミュニケーション

東アジア諸国の経済力が発展するとともに、隣国韓国との経済的な関係はさらに重要になり、韓国語のニーズが高まっている。本履修ユニットでは基礎的な韓国語について学修し、簡単な日常会話ができるように指導している。パソコンによるeラーニングで、韓国語を学ぶことができるのも、本学の特色である。

中国語コミュニケーション

国際社会における中国の発展にともない、中国語がこれまで以上に重要な役割を果たすようになってきているが、本履修ユニットでは、こうした社会の要請に対応すべく、中国語でコミュニケーションができる人材の育成を図っている。コンピュータによるeラーニングで、中国語を学ぶことができるのも、本学の特色である。

ハワイ留学・韓国留学・中国留学

これらの履修ユニットは、英語、韓国語、中国語を現地で実践的に学ぶとともに、それぞれの地域の文化や生活を実際に体験し、異文化理解を深めることを目的としている。具体的には、ハワイ留学はハワイ東海インターナショナルカレッジ、韓国留学は釜山の東義科学大学、中国留学は北京第2外国語学院でそれぞれ2週間の日程で、語学及び現地体験プログラムが集中的に実施され、学習効果を高めるように工夫されている。

スポーツ・地域交流分野

スポーツレジャー

社会の成熟化に伴い、生活の質を高めるスポーツレジャーの役割が注目されており、この履修ユニットでは、スポーツやレジャーの基礎を学び、企業や地域社会のリーダーとして活躍できる人材育成を目的としている。また、スポーツ指導者をめざす学生が増加していることから、東海大学との関係を強化し、体育学部への編入を視野に入れた教育指導も行っている。

生涯スポーツ

高齢化社会の到来により、高齢者がスポーツを通して健康増進を図り、健康や体力の維持を図る「生涯スポーツ」の考え方が広く浸透するようになった。この履修ユニットでは、とくにスポーツを通じた高齢者とのふれあいや、高齢化した地域社会におけるスポーツの普及などをテーマに、私たちの生活のなかでスポーツが果たしている役割を実践的に学ぶことを目的としている。

まちづくりNPO

21世紀に入り、高齢化や過疎化の進展により、地域の衰退が緊急の課題として浮上しているが、この履修ユニットでは、まちづくりを積極的に推進しているNPO（非営利団体）などの活動を実践的に学び、将来的には地域の活性化に積極的に関われる人材の育成をめざしている。まちづくりは、観光や生涯スポーツなどとも密接に関係しており、この履修ユニットをコアに、国際文化学科の特性を生かした複合型の履修により、地域社会の要請に応じたカリキュラムを展開している。

福祉ボランティア

今日の社会では、福祉やボランティアなど社会貢献型の活動が広く求められるようになっており、この履修ユニットではこうした社会的なニーズに対応し、福祉やボランティアの専門知識を学ぶだけでなく、地域におけるボランティア活動に参加するなど、実践的な学修を行っている。

2) カリキュラム

a. 開講科目（学科専門科目）一覧 学科専門科目（2008年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。 数字は1週あたりの時間 数。集中授業の場合は 「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤に は「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講 科目については 累計。斜線は履 修者数未確定)	e ラー ニング	備考
					1	2	3	4				
国際文化共通	国際文化論	講義	×	2	2				専任	29		
	異文化交流論	講義	×	2			2		専任			
	比較文化論	講義	×	2				2	専任		○	
	海外留学研究	講義	×	2		2			専任	9		
	ヨーロッパ文化圏地域研究	講義	×	2				2	専任			
	アメリカ文化圏地域研究	講義	×	2				2	専任			
	ハワイ文化圏地域研究	講義	×	2	2				専任	53		
	韓国文化圏地域研究	講義	×	2		2			専任	30		
	中国文化圏地域研究	講義	×	2		2			専任	24		
	地域サービス論	講義	×	2	2				専任	28		
	まちづくりNPO論	講義	×	2		2			専任	36		
まちづくりNPO演習	演習	×	2			2		専任				
観光ビジネス	観光原論	講義	×	2	2				専任	53		
	旅行業法規	講義	×	2	2				専任	33	○	
	ツーリズムビジネス	講義	×	2		2			専任	58		
	ツーリズム演習	演習	×	2	2				専任	34		
	ホテルビジネス	講義	×	2	2				専任	43		
	ツアーコンダクター	講義	×	2		2			専任	32		
	エアラインビジネス	講義	×	2		2			専任	50		
	国内観光地理	講義	×	2	2				専任	48		
	海外観光地理	講義	×	2		2			専任		○	
	エコツーリズム論	講義	×	2		2			専任			
	観光メディア論	講義	×	2			2		専任			
	観光マーケティング	講義	×	2		2			専任	35	○	
	アジア観光研究	講義	×	2		2			非常勤	43		
	アジア観光史	講義	×	2		2			非常勤			
	観光英語I	講義	×	1		2			専任			
	観光英語II	講義	×	1			2		専任			
	観光韓国語I	講義	×	1			2		専任			
観光韓国語II	講義	×	1			2		専任				
観光中国語I	講義	×	1			2		専任				
観光中国語II	講義	×	1			2		専任				
英語・韓国語・中国語	英語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	50		
	英語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	41		
	英検I	講義	×	1	2				専任	66		
	英検II	講義	×	1		2			専任	54		
	英検III	講義	×	1			2		専任			
	英検IV	講義	×	1			2		専任			
	TOEIC I	講義	×	1	2				非常勤	47		
	TOEIC II	講義	×	1		2			非常勤	43		
	ビジネス英語I	講義	×	1			2		専任			
	ビジネス英語II	講義	×	1			2		専任			
	韓国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	20		
	韓国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	9		
	韓国語演習I	演習	×	1	2				専任	19	○	
	韓国語演習II	演習	×	1		2			専任	13	○	
	中国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	10		
	中国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	11		
	中国語演習I	演習	×	1	2				専任	14		
	中国語演習II	演習	×	1		2			専任	23		
	ハワイ短期留学	講義	×	2	集				専任	21		
	韓国短期留学	講義	×	2	集				専任	9		
中国短期留学	講義	×	2	集				専任	7			
ゼミナール	総合ゼミナールI	演習	○	1	2				専任	80		
	総合ゼミナールII	演習	○	1		2			専任	72		
	総合ゼミナールIII	演習	○	1			2		専任			
	総合ゼミナールIV	演習	○	1			2		専任			

学科専門科目（2007年度生）

科目の種類別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位、 数字は1週あたりの時間 数。集中授業の場合は 「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤に は「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講 科目については 累計。斜線は履 修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
国際文化学科共通	国際文化論	講義	×	2	2				専任	51		
	異文化交流論	講義	×	2			2		専任	25		
	比較文化論	講義	×	2				2	専任	72	○	
	日本文化圏地域研究	講義	×	2		2			非常勤	0		
	アジア文化圏地域研究	講義	×	2		2			非常勤	21		
	中国文化圏地域研究	講義	×	2		2			専任	21		
	アメリカ文化圏地域研究	講義	×	2				2	専任	60		
	ヨーロッパ文化圏地域研究	講義	×	2				2	専任	19		
	ハワイ文化論I	講義	×	2	2				専任	69		
	ハワイ文化論II	講義	×	2		集			専任	45		
まちづくりNPO論	講義	×	2		2			専任	18			
観光ビジネス	トラベルビジネス	講義	×	2		2			専任	54	○	
	ホテル業務	講義	×	2		2			専任	50		
	ツアーコンダクター業務	講義	×	2	2				専任	60	○	
	エコツーリズム論	講義	×	2			2		専任	38		
	観光原論	講義	×	2	2				専任	61	○	
	旅行業法規	講義	×	2	2				専任	49	○	
	国内観光地理	講義	×	2	2				非常勤	53		
	海外観光地理	講義	×	2			2		専任	47		
	観光メディア論	講義	×	2				2	専任	41	○	
	観光マーケティング	講義	×	2		2			専任	33	○	
英語・中国語・韓国語	英語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	59		
	英語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	40		
	観光英語I	講義	×	1			2		専任	28		
	観光英語II	講義	×	1				2	専任	11		
	ボランティア・通訳英語I	講義	×	1	2				非常勤	30		
	ボランティア・通訳英語II	講義	×	1		2			非常勤	21		
	TOEIC・英検I	講義	×	1	2				専任	66		
	TOEIC・英検II	講義	×	1		2			専任	52		
	ビジネス英語I	講義	×	1	2				専任	10		
	ビジネス英語II	講義	×	1		2			専任	11		
	中国語演習I	演習	×	1	2				専任	28	○	
	中国語演習II	演習	×	1		2			専任	15	○	
	中国語検定I	講義	×	1	2				専任	19		
	中国語検定II	講義	×	1		2			専任	9		
	韓国語演習I	演習	×	1	2				専任	14	○	
	韓国語演習II	演習	×	1		2			専任	10	○	
	観光中国語I	講義	×	1		2			専任	3		
	観光中国語II	講義	×	1			2		非常勤	2		
観光韓国語I	講義	×	1		2			専任	8			
観光韓国語II	講義	×	1			2		専任	10			
ゼミナール	総合ゼミナールI	演習	○	1	2				専任	93		
	総合ゼミナールII	演習	○	1		2			専任	90		
	総合ゼミナールIII	演習	○	1			2		専任	79		
	総合ゼミナールIV	演習	○	1				2	専任	80		
	専門ゼミナールI	演習	×	2	2				専任	41		
	専門ゼミナールII	演習	×	2		2			専任	18		
	専門ゼミナールIII	演習	×	2			2		専任	24		
	専門ゼミナールIV	演習	×	2				2	専任	9		

b. 履修可能科目および卒業要件について

国際文化学科に所属する学生は、国際文化学科の学科専門科目のほか、項目（1）で挙げた両学科共通科目を履修できる。また、情報処理工学の学科専門科目についても、原則として履修できる。このほか、1・2セメスターの学生が、3・4セメスターの科目を受講することは原則として認めない。

卒業要件としては、両学科共通科目および学科専門科目に設定された必修科目（必選別に○マークのある科目）を全て合格し、かつ、合計で62単位以上の単位を取得することである。ただし、情報処理工学の学科専門科目については、卒業要件として最大で20単位までしか認めない。

3) 現状評価、問題点・課題と教育課程の見直し・改善

少子化の進行により、大学や短大の入学者の減少が社会問題として注目されており、とりわけ、短期大学では語学系や一般教養系の苦戦が目立っているが、本学国際文化学科も例外ではない。こうした社会環境の変化のなかで、四年制大学においても実務教育の重要性が声高に叫ばれている今日、短期大学である本学の国際文化学科でも、教育のあり方について、根本的に考え直す時期に来ていると思われる。国際文化学科では、こうした認識から、社会が必要とする実践的な能力の向上という視点で科目編成の見直しを図り、何を学ぶかを明確にした履修ユニットを 21 モデル（情報処理学科との共通履修ユニットを含む）設定し、これらを複合的に履修することによって、学生一人ひとりにあわせたカリキュラムで指導する個別教育を実践している。

2008 年度では、多様な履修モデルの設定により、将来の進路を考慮した学修を可能にするとともに、従来の専門重視の教育から、今日の社会に対応する実践的な教育へと切り換えを進めた。複合的な履修ユニットの組合せにより、社会の求める学際的な教育に対応、学生一人ひとりに最適化した教育システムの確立を図り、一定の成果をおさめることができたことは大きな収穫であった。

今後の課題は、こうした個別教育をさらに充実させるために、履修ユニットのブラッシュアップを図り、さらに、e ラーニングなど IT 技術により、「いつでも、どこでも、誰でも」自由に学修できる「学びの自由化」を文字どおり実現することが重要である。国際文化学科では観光、語学（中国語、韓国語）を中心に、e ラーニング化を図り、履修希望の学生も増加しているが、今後は英語の e ラーニング化をどのように実現するかが、課題となっている。

以上のように本学科では学科改革に意欲的に取り組み、社会環境の変化に適切に対応した学科運営に力を入れているが、国際文化学科という学科の性質上、専門分野が広く、社会のニーズに十分に対応するためには、専任教員のみでは対応できず、外部の専門家の協力が必要である。わが国の短期大学の置かれた現状から考えると、今後他の短期大学や高等教育機関との連携をさらに深め、よりいっそう充実した教育システムを構築する必要がある。

(4) 学年暦

2008年	4月	3日(木)	入学式(13時)	
		4日(金)		
		7日(月)	全体・学科別・ゼミ別ガイダンス、科目履修ユニットガイダンス、 導入授業、基礎学力試験、奨学金説明会	
		8日(火)		
		9日(水)	学生健康診断、現代文明論ガイダンス	
		10日(木)		
		11日(金)	新入生オリエンテーション・キャンプ	
		14日(月)	春学期授業開始	
	7月	23日(水)	月曜授業充当日	
		24日(木)	火曜授業充当日、春学期授業終了	
		25日(金)		
		26日(土)	春学期補講期間	
		28日(月)		
		29日(火)		
		30日(水)	春学期定期試験(追試験 8/2、8/4)	
		31日(木)		
	8月	1日(金)		
		5日(火)	夏期休暇(～9/24)、サマーセッション(～9/5)	
	9月	3日(水)	短期大学(部)スポーツ大会(予定)	
		4日(木)		
		上旬～中旬	ハワイ短期留学(予定)	
		25日(木)	9月学位授与式、秋学期入学式	
		26日(金)	秋学期全体・学科別・ゼミ別ガイダンス	
		29日(月)	秋学期授業開始	
	10月	13日(月)	月曜授業(祭日を振り替える)	
		17日(金)	10/13の振替休日	
	11月	1日(土)	建学祭準備(11/1)・建学記念式典(11/3)	
		4日(火)	建学祭(11/2、11/3)、建学祭後片づけ(11/4)	
	12月	22日(月)	冬期休暇前授業終了	
		23日(火)	冬期休暇(～1/7)	
	2009年	1月	8日(木)	冬期休暇後授業再開
			22日(木)	月曜授業充当日
			27日(火)	秋学期授業終了
28日(水)				
29日(木)			秋学期補講期間	
30日(金)				
31日(土)				
2月		2日(月)	秋学期定期試験(追試験 2/5、2/6)	
		3日(火)		
		4日(水)		
		9日(月)	ウィンターセッション(～3/5)	
3月		9日(月)	卒業ガイダンス	
		19日(木)	学位授与式・卒業記念パーティー	

(5) 時間割

5月1日現在

2008年度授業時間割 情報処理科(08生)第1セメスター

- () 内の記号は○: 必修・×: 選択、数字は単位数を表しています。
- 赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

曜日	1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目	6 時限目
月	9:00~10:20 青年期の心理 (×2) 944HA 宋 1307	10:30~11:50 英語I (×1) 9483A 神山 LL 9483B 吉岡 1303 9483C 赤井 1304 9483D 岡崙 1306	12:40~14:00 情報処理I (×2) 9946A 宮川 1307	14:10~15:30 プレゼンテーション (×2) 9924A 末松 第1, 2実習室	15:40~17:00 線形代数学I (×2) 0427A 末松 1307	
火	情報リテラシーI (×1) 0219A 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	情報リテラシーI (×1) 0219B 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	教育原理 (×2) 0425A 小栗 2501	スポーツ理論及び実習I (×1) 0410A 北濱 コモンホール 他	スポーツ理論及び実習I (×1) 0410B 北濱 コモンホール 他	
水	韓国語I (×1) 0716A 伊原 1307	現代社会と思想 (×2) 9940A 真下 1307	モバイル社会と市民生活 (×2) 0836A 貝田 2501	秘書実務 (×1) 947JA 赤井 1307	カラーコーディネーション (×2) 0015A 飯田 1303	
木	コンピュータシステム (×2) 0811A 宮川 1304	進路対策I (×2) 0035A 齋藤、矢原、宮川、宮内 真下、大方、竹内 2502 他	総合ゼミナールI (○1) 情報教員 国際教員 0632A 伊津 0632H 赤井 0632B 齋藤 0632I 伊原 0632C 末松 0632J 大方 0632D 徳永 0632K 神山 0632E 宮川 0632L 北濱 0632F 矢原 0632M 真下 0632G 八尋 0632N 宮内 0632P 吉岡 0632Q 竹内 0632R チョウ	インターネット実習I (×1) 9970A 八尋、徳永 第1, 2実習室	現代文明論I (○2) 941DA 伊津、徳永、大方、北濱 2502	地域資源開発I (×2) 0801A 竹内 1406
金	3次元CG制作I (×2) 0629A 伊津、齋藤 第2実習室		フランス語I (×1) 9920A 真下 視聴覚	簿記原理I (×2) 9969A 佐竹 2502	簿記演習I (×2) 9965A 佐竹 2502	
			メディアリテラシー (×2) 0029A 伊津 2502			

e-ラーニング 基礎数学I (×2) **0423X** 成嶋

集中 地域資源開発II (×2) **0802A** 竹内
海外短期留学 (×2) 東海大学派遣留学制度他
海外中期留学 (×3) 東海大学派遣留学制度他

- 履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。
- 実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2008年度授業時間割 国際文化学科(08生)第1 Semester

●()内の記号は○:必修・×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

曜日	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
月	9:00~10:20 青年期の心理 (×2) 944HA 宋 1307 地域社会とボランティア (×2) 0701A 竹内 2501	10:30~11:50 英語I (×1) 9483A 神山 LL 1303 9483B 吉岡 1303 9483C 赤井 1304 9483D 岡崎 1306 スポーツ・レジャー論 (×2) 0309A 北濱 1406	12:40~14:00 英検I (×1) 0825A 神山 1305 0825B 玉置 1302	14:10~15:30 英語コミュニケーションI (×2) 0031A 吉岡 1305 0031B 赤井 1304 0031C 玉置 1302 ※週2コマ【水1または金4】開講	15:40~17:00 地域サービス論 (×2) 0816A 竹内 1406 英語I (×1) 9483E クルーズ 2501	
火	情報リテラシーI (×1) 0219A 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	情報リテラシーI (×1) 0219B 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室 社会福祉概論 (×2) 0317A 小栗 2501	教育原理 (×2) 0425A 小栗 2501 中国語コミュニケーションI (×2) 9958A チョウ 1302 ※週2コマ【木1】開講	スポーツ理論及び実習I (×1) 0410A 北濱 コモンホール 他 韓国語コミュニケーションI (×2) 0831A 伊原 1307 ※週2コマ【金1】開講	スポーツ理論及び実習I (×1) 0410B 北濱 コモンホール 他 中国語I (×1) 9953A チョウ 1304 観光原論 (×2) 940BA 宮内 1406	
水	韓国語I (×1) 0716A 伊原 1307 英語コミュニケーションI (×2) 吉岡 1305 赤井 1304 ※週2コマ【月4】開講	現代社会と思想 (×2) 9940A 真下 1307 ハワイ文化圏地域研究 (×2) 0115A 吉岡 1406	モバイル社会と市民生活 (×2) 0836A 貝田 2501 ビジネス基礎 (×2) 0022A 佐竹 2502	秘書実務 (×1) 947JA 赤井 1307 ホテルビジネス (×2) 0820A 宮内 1305		
木	ツーリズム演習 (×2) 0819A 宮内、大方 第1実習室 中国語コミュニケーションI チョウ 1302 ※週2コマ【火3】開講	進路対策I (×2) 0035A 齋藤、矢原、宮川、宮内 真下、大方、竹内 2502 他	総合ゼミナールI (○1) 情報教員 国際教員 0632A 伊津 0632H 赤井 0632B 齋藤 0632I 伊原 0632C 末松 0632J 大方 0632D 徳永 0632K 神山 0632E 宮川 0632L 北濱 0632F 矢原 0632M 真下 0632G 八尋 0632O 宮内 0632P 吉岡 0632Q 竹内 0632R チョウ	現代文明論I (○2) 941DA 伊津、徳永、大方、北濱 2502	地域資源開発I (×2) 0801A 竹内 1406 中国語演習I (×1) 0429A チョウ 1304	
金	旅行業法規 (×2) 0125A 大方 1406 韓国語コミュニケーションI 伊原 1307 ※週2コマ【火4】開講	国際文化論 (×2) 942EA 真下 1307 韓国語演習I (×1) 0718X 伊原 第1実習室	フランス語I (×1) 9920A 真下 視聴覚 TOEIC I (×1) 0829A 玉置 1303	英語コミュニケーションI (×2) 玉置 1302 ※週2コマ【月4】開講 国内観光地理 (×2) 0216A 大方 1307		

e-ラーニング 基礎数学I (×2) 0423X 成嶋

集中	地域資源開発II (×2) 0802A 竹内
	ハワイ短期留学 (×2) 吉岡、神山
	韓国短期留学 (×2) 伊原
	海外短期留学 (×2) 東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学 (×3) 東海大学派遣留学制度他

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2008年度授業時間割 情報処理科 (08生) 第2セメスター

● () 内の記号は○: 必修・×: 選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

曜日	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
	9:00~10:20	10:30~11:50	12:40~14:00	14:10~15:30	15:40~17:00	17:10~18:30
月	青年期の心理 (×2) 944HJ 宋 1406	英語II (×1) 9486J 神山 LL 9486K 吉岡 1303 9486L 赤井 1304 9486M 岡崎 1306	情報処理II (×2) 9947J 宮川 1305	データベース (×2) 9448J 徳永 第4実習室	英語II (×1) 9486P クルーズ 1306	
	地域社会とボランティア (×2) 0701J 竹内 2501	スポーツ・レジャーマネジメント (×2) 0408J 北濱 1406			線形代数II (×2) 0428J 末松 1307	
火	情報リテラシーII (×1) 0220J 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	情報リテラシーII (×1) 0220K 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	子どもケア論 (×2) 0807J 小栗 2501	スポーツ理論及び実習II (×1) 0411J 北濱 コモンホール 他	スポーツ理論及び実習II (×1) 0411K 北濱 コモンホール 他	
	特修英語I (×1) 0702J 神山 1304 0702K 赤井 1306	児童福祉 (×2) 0426J 小栗 2501	プログラミングI (×1) 9925J 矢原 第1実習室	専門ゼミナールII (×2) 0637J 小栗 共同ゼミ室6	PC検定II (×1) 0813J 末松 第2実習室	
水	韓国語II (×1) 0717J 伊原 1307	専門ゼミナールII (×2) 0637K 徳永 0637L 八尋 0637M 宮川 各研究室	モバイル社会と市民生活 (×2) 0836J 貝田 2501	医療事務 (×4) 0419J 古賀 1305		
	アルゴリズム (×2) 9419J 宮川 2501	PC検定I (×1) 0812J 矢原 第2実習室	医療情報 (×2) 0420J 矢田 1307	コンピュータネットワーク (×2) 0016J 八尋 第4実習室		
木	インターネット実習II (×1) 0011J 八尋 第1, 2実習室	進路対策II (×2) 0318J 齋藤、矢原、宮川、宮内 真下、大方、竹内 2502 他	総合ゼミナールII (○1) 情報教員 国際教員 0633A 伊津 0633B 齋藤 0633C 末松 0633D 徳永 0633E 宮川 0633F 矢原 0633G 八尋	現代文明論II (○2) 942DJ 伊津、徳永、大方、北濱 2502	中国語II (×1) 9954J チョウ 1304	
	子どもの健康と保健 (×2) 0808J 江藤 1406		0633H 赤井 0633I 伊原 0633J 大方 0633K 神山 0633L 北濱 0633M 真下 0633N 宮内 0633P 吉岡 0633Q 竹内 0633R チョウ		地域資源開発III (×2) 0803J 竹内、矢原、宮川 1406	
			各研究室		微分積分学II (×2) 0435J 齋藤 1302	
金	ビジネス文書作成技法 (×2) 0417J 白川 1303	現代社会と思想 (×2) 9940J 真下 1406	フランス語II (×1) 9921J 真下 視聴覚	簿記原理II (×2) 0039J 佐竹 1406	簿記演習II (×2) 9966J 佐竹 1406	
	3次元CG制作II (×2) 0630J 伊津 第2実習室		インターネットビジネス (×2) 0112J 伊津、非常勤 2502	メディアシステム (×2) 0028J 伊津 2502		
e-ラーニング	基礎数学II (×2) 0424X 成嶋					
集中	企業実習 (×2) 齋藤、佐竹、宮内、竹内 海外短期留学 (×2) 東海大学派遣留学制度他 海外中期留学 (×3) 東海大学派遣留学制度他 海外研修(航海) (×4)					

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2008年度授業時間割 国際文化学科(08生)第2セメスター

●()内の記号は○:必修・×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
曜日	9:00~10:20	10:30~11:50	12:40~14:00	14:10~15:30	15:40~17:00	17:10~18:30
月	青年期の心理 (×2) 944HJ 宋 1406	英語II (×1) 9486J 神山 LL 9486K 吉岡 1303 9486L 赤井 1304 9486M 岡崎 1306	英検II (×1) 0826J 岡崎 1306 0826K 玉置 1302	アジア観光研究 (×2) 0823J 劉 1406	英語II (×1) 9486P クルーズ 1306	
	地域社会とボランティア (×2) 0701J 竹内 2501	スポーツ・レジャーマネジメント (×2) 0408J 北濱 1406		英語コミュニケーションII (×2) 0032J 吉岡 1305 0032K 赤井 1304 0032L 玉置 1302 ※週2コマ【水1または金4】開講	中国語コミュニケーションII (×2) 9959J チョウ 1302 ※週2コマ【水4】開講	
火	情報リテラシーII (×1) 0220J 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	情報リテラシーII (×1) 0220K 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	子どもケア論 (×2) 0807J 小栗 2501	スポーツ理論及び実習II (×1) 0411J 北濱 コモンホール 他	スポーツ理論及び実習II (×1) 0411K 北濱 コモンホール 他	
	特修英語I (×1) 0702J 神山 1304 0702K 赤井 1306	児童福祉 (×2) 0426J 小栗 2501	エアラインビジネス (×2) 0822J 宮内 1307	中国語演習II (×1) 0430J チョウ 1304		
水	韓国語II (×1) 0717J 伊原 1307	韓国文化圏地域研究 (×2) 0815J 伊原 2501	モバイル社会と市民生活 (×2) 0836J 貝田 2501	ツーリズムビジネス (×2) 0818J 宮内 1406		
	まちづくりNPO論 (×2) 0722J 竹内 1406	ツアーコンダクター (×2) 0821J 宮内 1307		中国語コミュニケーションII チョウ 1302 ※週2コマ【月5】開講		
木	中国文化圏地域研究 (×2) 0721J チョウ 1303	進路対策II (×2) 0318J 齋藤、矢原、宮川、宮内 真下、大方、竹内 2502 他	総合ゼミナールII (○1) 情報教員 国際教員 0633A 伊津 0633H 赤井 0633B 齋藤 0633I 伊原 0633C 末松 0633J 大方 0633D 徳永 0633K 神山 0633E 宮川 0633L 北濱 0633F 矢原 0633M 真下 0633G 八尋 0633O 宮内 0633P 吉岡 0633Q 竹内 0633R チョウ	現代文明論II (○2) 942DJ 伊津、徳永、大方、北濱 2502	中国語II (×1) 9954J チョウ 1304	
	英語コミュニケーションII 吉岡 1305 赤井 1304 ※週2コマ【月4】開講		各研究室		地域資源開発III (×2) 0803J 竹内、矢原、宮川 1406	
金	韓国語コミュニケーションII 伊原 1307 ※週2コマ【水4】開講	現代社会と思想 (×2) 9940J 真下 1406	フランス語II (×1) 9921J 真下 視聴覚	英語コミュニケーションII 玉置 1302 ※週2コマ【月4】開講		
	観光マーケティング (×2) 0315J 大方 2501	韓国語演習II (×1) 0719X 伊原 第1実習室	TOEICII (×1) 0830J 玉置 1302	海外留学研究 (×2) 0814J 真下 1307		
e-ラーニング	基礎数学II (×2) 0424X 成嶋					
集中	企業実習 (×2) 齋藤、佐竹、宮内、竹内					
	中国短期留学 (×2) チョウ					
	海外短期留学 (×2) 東海大学派遣留学制度他					
	海外中期留学 (×3) 東海大学派遣留学制度他					
海外研修(航海) (×4)						

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2008年度授業時間割 情報処理科 (07生) 第3セメスター

● () 内の記号は○: 必修・×: 選択、数字は単位数を表しています。

● 赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月	野外活動理論及び実習 (×1) 0606A 北濱、前田 1406	保育技能II (×1) 0618A 山下 保育学演習室	デジタルデッサン (×2) 0631A 山下 第2実習室、1306	スポーツ理論及び実習III (×1) 0604A 北濱 コモンホール 他	スポーツ理論及び実習III (×1) 0604B 北濱 コモンホール 他	
	コンピュータネットワーク (×2) 0016A 八尋 第4実習室					
火		精神保健 (×2) 0611A グリシェン 1305	英語III (×1) 9489A 吉岡 1303 9489B 神山 LL 9489C 赤井 1306	特修英語II (×1) 0703A 神山 1304 0703B 赤井 1306	ゲームデザイン (×2) 0307A 伊津 第4実習室	
	プログラミングIII (×2) 9927A 宮川 第4実習室			養護原理 (×2) 0616A 小栗 2501		
水	環境と地球 (×2) 0601A 伊津 2502	専門ゼミナールIII (×2) 0638A 齋藤(閉講) 0638B 伊津 0638C 徳永 0638D 末松 0638E 八尋 各研究室	総合ゼミナールIII (○1) 情報教員 国際教員 0634A 伊津 0634H 赤井 0634B 齋藤 0634I 伊原 0634C 末松 0634J 大方 0634D 徳永 0634K 神山 0634E 宮川 0634L 北濱 0634F 矢原 0634M 真下 0634G 八尋 0634O 宮内 0634P 吉岡 0634Q 竹内 0634R チョウ 各研究室	経済と国際社会 (×2) 9939A 貝田 2501		
	情報と生活 (×2) 0602A 八尋 2501					
木	データベース (×2) 9448A 徳永 第4実習室			文学と歴史 (×2) 9963A 神山 2501	進路対策III (×2) 0319A 齋藤、矢原、宮川、宮内 真下、神山、大方 2502 他	
金	オフィス事務 (×2) 0014A 白川 1303	インターネット実習III (×1) 0012A 八尋 第4実習室	CAD実習I (×1) 0705A 徳永 第4実習室			
	IT教育法 (×2) 0625A 八尋 第4実習室					
集中	スポーツ科学論 (×2) 0607A 高妻 救急処置法 (×2) 0609A 宮崎 海外短期留学 (×2) 東海大学派遣留学制度他 海外中期留学 (×3) 東海大学派遣留学制度他					

● 履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

● 実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2008年度授業時間割 国際文化学科(07生)第3セメスター

●()内の記号は○:必修・×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月	野外活動理論及び実習(×1) 0606A 北濱、前田 1406	保育技能II(×1) 0618A 山下 保育学演習室		スポーツ理論及び実習III(×1) 0604A 北濱 コモンホール 他 観光中国語II(×1) 0708A 劉 1406	スポーツ理論及び実習III(×1) 0604B 北濱 コモンホール 他	
火	専門ゼミナールIII(×2) 0638F 小栗 共同ゼミ室6	精神保健(×2) 0611A グリシェン 1305 観光英語I(×1) 0213A 大方 1307	英語III(×1) 9489A 吉岡 1303 9489B 神山 LL 9489C 赤井 1306	特修英語II(×1) 0703A 神山 1304 0703B 赤井 1306 養護原理(×2) 0616A 小栗 2501	専門ゼミナールIII(×2) 0638G 真下 0638H 吉岡 0638I 伊原 0638K 大方 各研究室	
水	環境と地球(×2) 0601A 伊津 2502 情報と生活(×2) 0602A 八尋 2501	異文化交流論(×2) 9932A 赤井 2502	総合ゼミナールIII(○1) 情報教員 国際教員 0634A 伊津 0634H 赤井 0634B 齋藤 0634I 伊原 0634C 末松 0634J 大方 0634D 徳永 0634K 神山 0634E 宮川 0634L 北濱 0634F 矢原 0634M 真下 0634G 八尋 0634O 宮内 0634P 吉岡 0634Q 竹内 0634R チョウ 各研究室	経済と国際社会(×2) 9939A 貝田 2501		
木		観光韓国語II(×1) 0710A 伊原 1307		文学と歴史(×2) 9963A 神山 2501	進路対策III(×2) 0319A 齋藤、矢原、宮川、宮内 真下、神山、大方 2502 他	
金		海外観光地理(×2) 0314A 大方 1406				

集中	スポーツ科学論(×2) 0607A 高妻
	救急処置法(×2) 0609A 宮崎
	海外短期留学(×2) 東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学(×3) 東海大学派遣留学制度他

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2008年度授業時間割 情報処理科 (07生) 第4セメスター

● () 内の記号は○: 必修・×: 選択、数字は単位数を表しています。

● 赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月		専門ゼミナールIV (×2) 0639J 齋藤 0639K 徳永 0639L 八尋 各研究室	英語IV (×1) 9492J 吉岡 1403 9492K 神山 1404 9492L 赤井 1405	スポーツ理論及び実習IV (×1) 0605J 北濱 コモンホール 他	スポーツ理論及び実習IV (×1) 0605K 北濱 コモンホール 他	
火		経済と国際社会 (×2) 9939J 貝田 1406	アニメーション (×2) 0111J 貝田 第2実習室			
水		文学と歴史 (×2) 9963J 神山 1406	総合ゼミナールIV (○1) 情報教員 国際教員 0635A伊津 0635H赤井 0635B齋藤 0635I伊原 0635C末松 0635J大方 0635D徳永 0635K神山 0635E宮川 0635L北濱 0635F矢原 0635M真下 0635G八尋 0635O宮内 0635P吉岡 0635Q竹内 0635Rチョウ 各研究室	コンピュータネットワーク (×2) 0016J 八尋 第4実習室		
木	環境と地球 (×2) 0601J 伊津 2502	情報と生活 (×2) 0602J 八尋 2501			CAD実習II (×1) 0704J 徳永 第4実習室	
金	スポーツ・ヘルス (×2) 0608J 片平 1406					

集中	海外短期留学 (×2) 東海大学派遣留学制度他 海外中期留学 (×3) 東海大学派遣留学制度他
----	--

● 履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

● 実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2008年度授業時間割 国際文化学科(07生)第4セメスター

●()内の記号は○:必修・×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月			英語IV(×1) 9492J 吉岡 1403 9492K 神山 1404 9492L 赤井 1405	スポーツ理論及び実習IV(×1) 0605J 北濱 コモンホール 他	スポーツ理論及び実習IV(×1) 0605K 北濱 コモンホール 他	
火		経済と国際社会(×2) 9939J 貝田 1406	アメリカ文化圏地域研究(×2) 0006J 吉岡 1406	比較文化論(×2) 943JJ 神山 1406	専門ゼミナールIV(×2) 0639M 真下 0639P 伊原 各研究室	
水		文学と歴史(×2) 9963J 神山 1406	総合ゼミナールIV(○1) 情報教員 国際教員 0635A伊津 0635H赤井 0635B齋藤 0635I伊原 0635C末松 0635J大方 0635D徳永 0635K神山 0635E宮川 0635L北濱 0635F矢原 0635M真下 0635G八尋 0635O宮内 0635P吉岡 0635Q竹内 0635Rチョウ 各研究室	ヨーロッパ文化圏地域研究(×2) 0030J 真下 1307		
木	環境と地球(×2) 0601J 伊津 2502	情報と生活(×2) 0602J 八尋 2501		観光メディア論(×2) 0422J 宮内 1406		
金	スポーツ・ヘルス(×2) 0608J 片平 1406	エコツアーリズム論(×2) 0306J 大方 2501	観光英語II(×1) 0214J 大方 2501			
集中	海外短期留学(×2) 東海大学派遣留学制度他 海外中期留学(×3) 東海大学派遣留学制度他					

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

(6) 教科書

<1年春学期>

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
現代社会と思想	真下	現代の貧困	筑摩書房	700
青年期の心理	宋	よくわかる青年心理学	ミネルヴァ書房	2,500
英語 I	神山	People, Places, and Things 1	オックスフォード	1,900
	吉岡	People, Places, and Things 3	オックスフォード	1,900
	赤井	People, Places, and Things 2	オックスフォード	1,900
	岡寄			
	クルーズ			
フランス語 I	真下	Salut !	駿河台出版社	2,500
韓国語 I	伊原	韓国語の初歩	白水社	2,200
中国語 I	チョウ	迷尔中国語	中央大学生協出版局	1,900
秘書実務	赤井	秘書検定3級実問題集	早稲田教育出版	1,100
社会福祉概論	小栗	新選社会福祉	みらい	2,100
教育原理	小栗	教育原理	保育出版社	2,480
スポーツ理論及び実習 I	北濱	インディアカ	日本レクリエーション協会	1,260
スポーツ・レジャー論	北濱	現代人とレジャー・レクリエーション	不昧堂	2,500
進路対策 I (就職コースのみ)	齋藤、他	就職模擬試験練習問題集 新訂版	一橋出版	650
メディアリテラシー	伊津	メディアリテラシー	WESTWIND	700
2次元CG制作	伊津・齋藤	2次元CG	WESTWIND	700
3次元CG制作 I	伊津・齋藤	はじめてのCG	CG-ARTS協会	1,000
カラーコーディネート	飯田	カラーコーディネーションの基礎 第3版	中央経済社	2,800
情報基礎	矢原	Let's Study 情報活用トレーニング	ウイネット	1,400
コンピュータシステム	宮川	平成20年度 栢木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
簿記原理 I	佐竹	合格テキスト日商簿記3級	TAC出版	2,000
簿記演習 I		これで合格日商簿記検定問題集3級	一橋出版	870
情報処理 I	宮川	初級シスアドの基礎	iTEC	3,000
線形代数学 I	末松	やさしく学べる線形代数	共立出版	2,000
微分積分学 I	齋藤	微分積分学序論	学術図書	2,200
旅行業法規 国内観光地理	大方	2008年度旅行管理者国内短期完成	新日本教育図書	2,000
英語コミュニケーション I	吉岡	Smart Choice 1	オックスフォード	2,480
	玉置			
	赤井	First Choice (Student Book)	オックスフォード	2,480
英検 I	玉置	新・英検2級 サクセスコース	金星堂	2,000
TOEIC I	玉置	Kick Off the TOEIC Test	金星堂	1,950
韓国語コミュニケーション I	伊原	コミュニケーション韓国語 会話編1	白帝社	2,400
中国語コミュニケーション I	チョウ	らくらく中国語		1,190
中国語演習 I	チョウ	迷尔中国語	中央大学生協出版局	1,900

<2年春学期>

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
環境と地球	伊津	環境と地球	West Wind	700
英語Ⅲ	吉岡	English Know How 3	オックスフォード	2,440
	赤井	English Know How 1	オックスフォード	2,440
	神山	English Know How 2	オックスフォード	2,440
精神保健	グリシエン	保育士のための精神保健	ナカニシヤ出版	1,400
養護原理	小栗	保育士養成講座・改訂三版「養護原理」	全国社会福祉協議会	1,800
保育技能Ⅱ	山下	保育士養成講座・改訂三版「保育実習」	全国社会福祉協議会	1,800
スポーツ理論及び実習Ⅲ	北濱	インディアカ	日本レクリエーション協会	1,260
スポーツ科学論	高妻	今すぐ使えるメンタルトレーニング:選手用	ベースボールマガジン社	2,000
オフィス事務	白川	ビジネス実務の基礎	学文社	2,000
ゲームデザイン	伊津	ゲームデザイン教本	West Wind	700
CAD実習Ⅰ	徳永	平成20年度 CAD利用技術者試験 2級 基礎公式ガイドブック	日経BP社	3,330
観光英語Ⅰ	大方	Travel English at your fingertips	成美堂	1,800
観光韓国語Ⅱ	伊原	韓国語中級	白帝社	2,800
専門ゼミナールⅢ	齋藤	物理学	裳華房	2,200

<1年秋学期>

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
現代社会と思想	真下	現代の貧困	筑摩書房	700
青年期の心理	宋	よくわかる青年心理学	ミネルヴァ書房	2,500
英語Ⅱ	神山	People, Places, and Things 1	オックスフォード	1,900
	吉岡	People, Places, and Things 3	オックスフォード	1,900
	赤井・岡寄・クルーズ	People, Places, and Things 2	オックスフォード	1,900
フランス語Ⅱ	真下	Salut !	駿河台出版社	2,500
韓国語Ⅱ	伊原	韓国語の初歩	白水社	2,200
中国語Ⅱ	チョウ	迷尔中国語	中央大学生協出版局	1,900
児童福祉	小栗	エッセンシャル児童福祉論	みらい	2,500
子どもの健康と保健	江藤	保育士養成講座・改訂三版「小児保健」	全国社会福祉協議会	1,800
スポーツ理論及び実習Ⅱ	北濱	インディアカ	日本レクリエーション協会	1,260
進路対策Ⅱ	齋藤、他	短大生のための就活編	ディスコ	600
インターネットビジネス	伊津、他	ICTで変わるビジネス	West Wind	700
医療事務	古賀	日本医療事務協会オリジナルテキスト		13,500
メディアシステム	伊津	ICTとメディアシステム	West Wind	700
アルゴリズム	宮川	大滝みや子先生のかんたんアルゴリズム解法 流れ図と擬似言語	リックテレコム	2,000
簿記原理Ⅱ		合格テキスト日商簿記3級	TAC出版	2,000
簿記演習Ⅱ	佐竹	これで合格日商簿記検定問題集3級	一橋出版	870
PC検定Ⅱ	末松	日商PC検定試験 データ活用3級完全マスター	FOM出版	2,000
情報処理Ⅱ	宮川	平成20年度 イメージ&クラブでよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
線形代数学Ⅱ	末松	やさしく学べる線形代数	共立出版	2,000
微分積分学Ⅱ	齋藤	微分積分学序論	一橋出版	2,200
専門ゼミナールⅡ	宮川	初級シスアドの基礎	iTEC	3,000
英検Ⅱ	岡寄	ECC英検準2級 ニューステップ	南雲堂	1,500
	玉置	新 英検2級 サクセスコース	金星堂	2,000
TOEICⅡ	玉置	Kick Off the TOEIC Test	金星堂	1,950
中国語演習Ⅱ	チョウ	迷尔中国語	中央大学生協出版局	1,900
英語コミュニケーションⅡ	吉岡	Smart Choice 1	オックスフォード	2,480
	赤井	First Choice (Student Book)	オックスフォード	2,480
	玉置	Smart Choice 1	オックスフォード	2,480
韓国語コミュニケーションⅡ	伊原	よく分かる韓国語 step2	白帝社	2,800
中国語コミュニケーションⅡ	チョウ	らくらく中国語		1,190

<2年秋学期>

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
環境と地球	伊津	環境と地球	West Wind	700
英語Ⅳ	吉岡	English Know How 3	オックスフォード	2,440
	神山	English Know How 2	オックスフォード	2,440
	赤井	English Know How 1	オックスフォード	2,440
スポーツ理論及び実習Ⅳ	北濱	インディアカ	日本レクリエーション協会	1,260
専門ゼミナールⅣ	齋藤	物理学	裳華房	2,000
観光英語Ⅱ	大方	Travel English at Your Fingertips (実用観光英語)	成美堂	1,800

2. 教育の質の保証と改善に向けて

(1) ゼミナールと個別指導

本学の基本方針である「学びの自由化と個別教育の推進」を実現するため、本学においては、学生一人ひとりを、それぞれが希望する分野・履修ユニットに対応した、多くても20人程度の少人数制のゼミナール（総合ゼミナールⅠ～Ⅳ）に所属させ、入学時から卒業まで、履修、学習・生活・進路指導など、学園生活全般にわたって個別指導を行っている。なお、所属するゼミは、入学時の第1 Semesterでは、出願時の希望履修ユニットアンケートなどを参考にして、学科が学生の振り分け案を作成し、入学後の学生との面接により最終的に決定するが、第2 Semesterから卒業までのゼミは、各教員が提示するゼミの教育内容・方針を参考に、学生が自由に選択できるようになっている。

また、本学では、学生一人ひとりの様々な情報を集約し、全ての教職員が共有するためのWebシステム「学生カルテ (Student Relationship Management System/SRMS)」を運用している。平成11年度から運用されている本システムは、本学専任教員によって開発され、以降、継続的な改善・改良が施され今日に至っている。この学生カルテによって、学生の個別情報の迅速かつ的確な把握と、教職員同士の情報の共有化が可能になったことで、総合ゼミナールでの個別指導の現場に、書き込まれた様々な情報が直接反映され、「学生一人ひとりに一対一で向き合う」ことを目指す、本学のきめ細かい個別指導がより効果的に行われるようになった。

(2) FD活動

1) 目的

本学は「学びの自由化と個別教育」を基本方針に据え、多様性を増す学生一人ひとりに対応できる教育の実現による、初期高等教育そのものの質的変革を目指している。また、高等教育機関としての短期大学の存在意義が厳しく問われている現状において、本学が今後も生き残っていくためには、教育機関としての原点である教育能力の向上を第一に考えねばならない。これらの目標を実現するために、以下の3点を中心に研究活動を進める：

- リアルタイム授業評価の実施推進
- 相互授業参観の実施
- 授業評価・学生カルテシステムの補強

2) リアルタイム授業評価の座学授業での実施率向上

本学教員により開発されたリアルタイム授業評価システムは一部の若手教員でのみ実施されていた。本システムの有効性は関連学会でも認められており、私立情報教育協会からの講演依頼や、科研費採択の実績もある。しかしながら肝心の本学での実施率が非常に低い状況にあった。この理由として、本システムがWorld Wide Webを用いるため、授業評価を実施するにあたり、PC環境を必要とすることがあった。そこでシステムを改良し、学生への普及率がほぼ100%であるケータイ (Webブラウジング機能を持つ携帯電話) を用いて授業評価が実施できる様になっている。これによりPCを利用しない授業、とりわけ座学授業でも本システムが利用できるようになった。しかしながら、学生が個人的に所有するケータイを利用することは、本システム利用の際に発生するケータイのパケット通信代負担の問題があり、

教員・学生ともにその実施に躊躇する傾向が見られた。

そこで、授業評価の実施に要するパケット通信代相当を学生に支給することにより、授業評価実施の金銭的問題を解決し、授業評価の実施率アップを試みた。

2008年度は延 35 科目でリアルタイム授業評価が実施され、総計 8856 件の授業評価を得た。実施した科目は、情報と生活、インターネット実習 I/II/II、IT 教育法、コンピュータネットワーク、比較文化論、経済と国際社会、プログラミング I/II/III、文学と歴史、情報処理、アルゴリズム、PC 検定 I/II、スポーツ理論および実習 II、現代社会と思想、専門ゼミナールなどである。また本学教員の非常勤勤務先での授業（福岡教育大学、北九州市立大学、西南学院大学）や、本学での非常勤講師による授業でも実施されている。

実施科目数は前年比 159%、評価者数は前年比 216%と大幅に向上している。

※実際の授業評価結果は下記 URL で公開している。

<http://mp.ftokai-u.ac.jp/mp4/?cmd=p>

3) 相互授業参観の実施

他の教員が担当する授業を参観し、自分の担当する授業の教授法の改善を行うことを目的とした。これまで本学においては、過去、若手教員数名による授業参観形式による教員相互の授業評価を行った経験がある。残念ながら当時はこれに対する否定的な考えが多く、恒久的な取り組みとして継続されなかった経緯がある。近年、「授業評価」という形で学生による授業評価が日常的に行われている今日に至り、再度、教育の専門家として相互に授業を参観し、お互いの授業を検証する機会を得ることは、教育者としての観点からの教員同士の横のつながり、また、相互に刺激になり、よりよい教授法の開発・展開につながることを期待できる。

具体的には次の手順により行った。

- 1) 教員は自分が担当する科目から任意の科目について、「公開」する旨を通知し、他の教員に対して授業参観機会の情報（日時・科目名など）を提供する。なお、通知は「業務システム」(Web) 上で行う。
- 2) 教員は、提供された参観機会情報を元に、参観を行う。
- 3) 参観に際しては、指定された参観レポート表を持参し、レポート作成を行う。
- 4) 作成されたレポートは、FD 委員会を通じて授業者に提供する。

また、授業参観に際し、使用したレポートの参観ポイントを次のように設定した。

(準備)授業はよく準備されていましたか？	5	4	3	2	1
(導入)授業の目的・目標が明確に説明されていましたか？	5	4	3	2	1
(展開)授業に対する授業者の熱意が感じられましたか？	5	4	3	2	1
(展開)説明は学生にとって明確で十分にわかりやすいものでしたか？	5	4	3	2	1
(展開)授業は学生の理解度に配慮した形で進められたと思いますか？	5	4	3	2	1
(学習者)授業の内容を学生が十分に理解したと思いますか？	5	4	3	2	1
(学習者)学生は授業に積極的に参加していましたか？	5	4	3	2	1

実施の実際

相互授業参観が初の試みである今年度は、2008年11月以降を相互授業参観月間と設定した。11名(前年比275%)の教員が32教科(前年比457%)の授業を公開、それに対して合計37名(前年比176%)の参観が行われた。

4) FD 研究会

FD 研究会を 2009 年 3 月 18 日に実施した。内容は次のとおりである。

2008 年度の FD 活動概要報告

リアルタイム授業評価の事例報告

報告者 神山高行

概要

リアルタイム授業評価の事例報告：「比較文化論」第4セメスター開講の「比較文化論」（座学講義）で実施した。履修者数72名である。授業後にケータイあるいは学内PCを利用して授業評価を行わせた。延べ560名が授業評価を行った。実施率は約60%（途中受講を棄権した学生を除くと、実質の実施率は70%）であった。今年度はケータイを併用したので実施率が格段にあがった（前年度はPCの利用が中心）。Q1記述式の評価は大別すると3つに分類できる。文章長として40文字程度が20%程度、20文字程度が40%、残り40%はいわゆる「一言」（例：面白かった、楽しかった、勉強になった など）となった。反省点としては評価時間の制約、リアルタイム授業評価の速報性などを生かし切れていない部分があった。

資格試験対策授業における運用の工夫 ―知識定着のサイクルを目指して―

報告者 宮川幹平

概要

これまでの授業形式では、授業で教授した内容が定着できていない、授業以外で勉強してくれないなどの問題点があった。2008年度はこの問題点解消を授業運営目標とした。その目標達成のため、授業開始前に実施するウォーミングアップテスト、ワークシートの配布などを行った。またe-Learningの活用、リアルタイム授業評価も活用した。授業評価では評価内容を「先生は見てるよー」だけでなく、かならず何らかの形でフィードバックすることが重要であることがわかった。

(3) eラーニング

近年の少子化や短期大学をめぐる社会的要請の変化などにより、入学する学生の特徴は、年齢・国籍・学習経歴・基礎学力から、入学目的・希望進路に至るまで、多様化の一途を辿っており、個々の学生に対応した教育システムの確立が急務となっている。これらの学生指導に対し重要なことは、「個々の学習意欲、学習暦、学力レベル、目標、希望進路などを、トータルに、時と共に、的確に把握し、最適な出口に導くこと」である。

そこで、本学では基本方針である「学びの自由化と個別教育」の具現化に向けてeラーニングによる授業形態を導入し、{いつでも} {どこでも} {誰でも} 学ぶことのできる個に対応した体制づくりを推進している。

1) 取組み概要

本学では、(1)本学教員による独自のウェブ教材(2)学生カルテ(3)メンタリング、の3つをeラーニング実現の中核要素とし、これらの有機的な結合によって、多様な個々の学生に対する教育効果の増進を図っている。具体的には、授業担当教員とのメンタリング等によって得られた、学生の学習状況・希望進路・生活状況などの情報を学生カルテに蓄積し、教員間で共有する。この情報をもとに、教員は個々の学生の将来目標や能力に適する教材を提示することや、その時点での学生の状況に応じたより適切なメンタリングを推進している。

2) eラーニング科目と単位認定

正規科目のうち25科目（計40単位）をeラーニング履修可能科目として教材・環境等を整備し、運用している。これらの科目については、通常の対面授業も実施しており、学生は科目担当教員と相談のうえどちらの授業形態で受講するかを選択することができる。分野別科目数一覧を以下に示す。なお、具体的なeラーニング科目については、先に示したカリキュラム表のとおりである。

単位認定については、卒業要件62単位のうち30単位までを認めている。

科目区分別 eラーニング科目数一覧

科目区分	科目数
両学科共通	6
情報処理学科専門	13
国際文化学科専門	6

3) 支援体制

本学の e ラーニング教材の開発支援・運用に関しては、メディア情報センターがその全てを行っている。特に、メディア情報センターの下部組織であるラーニングリソースラボが、その中心的役割を担っている。

e ラーニング教材の開発は、授業担当の教員を中心に、ラーニングリソースラボスタッフが Web 化、技術指導、ビデオ撮影、編集作業などを支援する。

4) 現状の問題点と改善に向けての取組み

本学の e ラーニングに対する取組みも、2005 年度に本格稼働後、導入目的であり、かつ本学の教育目標である「学びの自由化と個別教育」の具現化、及び多様化した学生に対する教育の質向上に一定の成果をあげてきた。しかし、科目の内容上必ずしも e ラーニングとして実施すること望ましいとは言えない部分もあり、見直しを図った結果として 2008 年度は対象科目が減少している。また、本学学生の学習状況等から e ラーニングでの受講を安易に進められない層が増加しており、e ラーニングでの受講者が減少傾向にある。今後は、ブレンデッド形での対応など、上述の問題点も含めた取組み改善を図っていきたい。

(4) 実践教育

1) 取組み背景と目的

2008 年度 文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(教育 GP)」に本学が独自開発した「地域活性化型人材育成プログラム」が採択された。この取組の目的は、下記のとおりである。

近年若者の早期離職が、社会問題化している。この問題は、本学においても他人事とは言えない。本学において、この問題は顕著に表れていないが、大学全体の問題として真摯に受け止め対応する必要がある。本取組みは、そのようなことを踏まえ若者の早期離職を減少傾向に導くための学生の人材育成を地域で行うものである。大学自体の教育の質が大きく問われている昨今、社会に人材を輩出する大学が、この問題に取組むことは大きな意義を持つ。そこで、本学の教育の基本方針「学びの自由化と個別教育」を基盤に、この社会ニーズに合致した、より質の高い教育を実現するため、これまで培ってきた教育への ICT 活用に関する実績を用いて、この問題に取組もうと考える。その取組とは、前述したように大学の授業そのもののフィールドを地域に求め、そこで行う調査研究そのものを社会人となるための訓練プログラムを伴った持続可能な実践活動とするものである。この取組によって、学生の早期離職の減少を図るとともに、多様化した社会に順応できる人材育成を実現し、その活動成果が地域の活性化に繋がることを目的としている。

2) 実施体制

2007 年度に開設された地域総合連携研究室が、この取組み中心的役割を担う。ここでは、地域と大学をつなぐ窓口としての役割が求められ、その一方で実践活動を通して学生自身が「自分で考え、行動することの大切さ」に気付くように教育的指導を行う。また、様々な取組みを行うに当たって、学内調整も大学事務室や教授会と調整をとりながら進めていくものである。

3) 主な活動

a. ツアーの実施

ツアーの内容に関する詳細は、VII. 1. (3). 4). C に記載しているため、ここでは省略する。

b. 産官学民連携による取組み

① 教育 GP 採択記念フォーラムの開催

11 月 15 日 - 16 日の 2 日間、北九州市若松区にあるイオン若松ショッピングセンターで、教育 GP 採択記念フォーラムを実施した。このフォーラムのテーマは、今年度の活動テーマである「地産地消」を柱にして「私たちの生活の中の地域資源と地産地消について」というプログラムを構成した。初日は、学生が主体となるプログラムとした。具体的には、学生による「みんな聞いてよ！今の若者たちが考えていること」と題してのディベートを行った。2 日目は、地域の行政・企業・市民の方に集まってもらい「産官学民連携による地域の資源を開発するためには！」と題してパネルディスカッションを行った。

また、2日間共に会場では、学生手作りによるパネル展示を行った。この取り組みでは、時間帯によって一般参加者数に変動があったものの一日約500人程度の方が来場した。これまでの活動の成果が、この取り組みの中で多く現れた。入学当初、多くの学生が見知らぬ大人と接することを拒んでいたが、当日は積極的に来場者と接しようとする姿が随所に見られた。

② お土産開発

北九州市小倉北区役所まちづくり推進課から「北九州市の表玄関である小倉には、北九州を代表する菓子が無い。そこで、若者のアイデアで『これぞ、北九州のお土産』と言われる土産を考案してほしい」という依頼があった。

その依頼に対して、本学では専門家の方々をお呼びして、講義を行い学生のモチベーションを向上させていった。その結果として誕生したのが、「ねんりん小僧」である。名称とキャラクターを学生が考案した。ところが、これを商品化したくとも、技術がないために具現化ができなかった。そこで助けを求めたのが、本取り組みを支援している北九州商工会議所である。北九州商工会議所の仲介で、地元菓子会社老舗を紹介してもらい、交渉の結果、商品化へと進んだのである。また、完成後は、商品を普及させるために様々な活動に参加した。

- ・2月7日（土）－8日（日）：北九州「食市食座」へこの商品を出品し、試験販売を行った。2日間で準備していた500個が完売した。多くのマスコミに取り上げられ、商品の知名度アップにつながった。また、モノを売り楽しさや接客する楽しさを学生に大観させることができた。
- ・2月に行われた小倉駅での食市食座でのマスコミ報道を契機に、北九州地区での行事に呼ばれるようになった。3月14日（土）：門司柳町商店街ゆるキャラまつり、3月15日（日）：北九州空港 開港3周年記念、それぞれのイベントへの参加に対し、休日にもかかわらず積極的に学生が参加してくれるようになったのは、地域活動の賜物である。

4) 今後に向けて

実践活動を中心に、その活動成果が、地域の活性化につながるように今後も行っていく。しかしながら、地域での活動が多くなるに従い、地域に出ることが主となり、もっとも大切にしなければならない教育を疎かにしないように取り組み全体を進めていく次第である。

(5) 一貫教育

付属高校との一貫教育体制により、付属推薦入試入学予定者のうち付属第五高等学校対象にした事前学習と学園内の大学進学予定者のうち成績上位者を対象にした体験留学制度を入学前教育として実施している。付属高校の「現代文明論」の授業への講師派遣、および修学旅行の危機管理に関する講演も実施している。また、福岡県立折尾高等学校と高大連携授業の提携を行い、資格取得を中心として講師を派遣している。

1) 事前学習

付属推薦入学制度の一貫教育推進を図ることを目的に毎年実施し、第五高校より本学へ進学する生徒を対象に情報処理科、国際文化学科ともに短大の教育を早い時期に慣れるよう高校の3年後期に開講している。

今年度は「ビジネス基礎」（担当：宮内教授、吉岡教授、佐竹教授、八尋准教授、矢原准教授）を開講。受講者は3名で主に短大のコンピュータ実習室を用いて行った。例年、担当者からは報告書の提出があり、同様に高校へもフィードバックし次年度の参考にしていただいている。この授業は入学後の申告により短大の単位として認定している。

2) 体験留学

今年度は該当者がいなかった。この体験留学制度は毎年実施しており、「東海大学付属高等学校特別奨励入学制度」に該当する成績優秀な生徒を対象に、早い段階で大学の専門教育を受講させ、大学・高校への接続をスムーズにし、大学への入学前の準備を充実させることを目的にしている。本学園の特色の一つである一貫教育の推進を図る重要な制度であり、今後も内容の充実と福岡キャンパスの教育連携に勤め継続実行できるよう努めていきたい。

3) 高校現代文明論

付属第五高校の1年生に対して、より専門性の高い講義を行うことで勉学意欲向上と早期に高等教育機関への関心を高めることを目的として数年前より実施している。

今年度は4名の講師を派遣し、「東西文明」「文学」「スポーツ文化」「地域開発」などの内容で講義を行った。付属生に高等教育機関への関心と意識を持たせる上で重要な役割を担っており、今後も継続実行していく必要がある。

4) 修学旅行事前指導

付属第五高校の修学旅行の前に旅行の危機管理対策に関する講義を短大教員（担当：宮内教授）が行っている。国際文化学科の学習分野の中心である観光の特色を生かした取り組みであり、生徒だけでなく高校の修学旅行引率教員に関しても非常に意義のある内容となっている。今後も短大の専門分野を生かす上でも継続実行できるよう努めていきたい。

5) 折尾高校との高大連携事業

折尾高校の課題研究の時間（週2日3コマ）を利用して、情報系国家資格の取得支援（担当：宮川講師）とCAD講座（担当：徳永准教授）を実施している。情報系国家資格は、「基本情報技術者試験」と「初級アドミニストレータ試験」を対象とし、eラーニング教材を活用して実施した。今年度は、情報系国家資格が8名、CADが2名の受講となった。授業形態としては、毎週火曜日の午後に本学教員2名が折尾高校に出向いて講義を行う、いわゆる出前授業の体制で実施した。本学の教育の特徴を近隣の高校に提供することで、双方にとって意義のある取り組みであるので、今後も連携の幅を拡げていけるよう努めていきたい。

